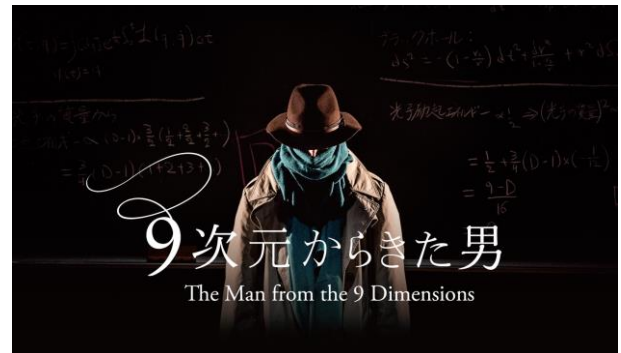


3D ドームシアター作品『9次元からきた男』が IPS フルドームフェスティバルで最優秀教育作品賞を受賞！

日本科学未来館（略称：未来館 館長：毛利 衛）が企画・製作した3D ドームシアター作品『9次元からきた男』（監修：大栗博司、監督：清水崇）が、2016年6月17日（金）、チェコで開催されたIPS フルドームフェスティバル2016（主催：国際プラネタリアム協会（IPS））において、最優秀教育作品賞を受賞しました。

同フェスティバルは、60カ国、約700の会員が加盟する国際プラネタリアム協会の総会として開催されるもので、世界最大級のプラネタリアムのフェスティバルです。本年は6月15日（水）～17日（金）にチェコのブルノ天文台で開催され、会期中の3日間で、15カ国から集まった66作品のドーム映像作品が上映されました。フェスティバル最終日の6月17日に、観客賞、ブルノ天文台館長賞、最優秀教育作品賞の3賞が決定し、『9次元からきた男』が最優秀教育作品賞を受賞することが発表されました。授賞式は、6月23日（木）13時（現地時間）に、ポーランドで開催されるIPS ワルシャワ会議（Revolve IPS Conference Warsaw 2016）にて行われる予定です。



『9次元からきた男』は日本科学未来館ドームシアターで公開中です。貴媒体でのご紹介いただけますよう何卒よろしくお願いいたします。

【受賞概要】

- フェスティバル名称：IPS Fulldome Festival Brno 2016 (IPS フルドームフェスティバル2016)
- 主催：International Planetarium Society (国際プラネタリアム協会)
- 会場：Brno Observatory and Planetarium (ブルノ天文台)
- 賞名：The Best Educational Production Award sponsored by the IPS-Eugenides Foundation (最優秀教育作品賞)
- 受賞者：日本科学未来館 (Miraikan)
- 受賞理由：『9次元からきた男』は宇宙や「万物の理論」という、最も複雑で深い問いについて、新鮮な洞察をもたらし、私たち国際審査員の好奇心を刺激しました。また、ストーリーも非常に魅力的で観客を引きつけるものがありました。作品のビジュアルや音楽も教育的要素を高めていること、また、フルドームという環境をクリエイティブに活用したところも評価しました。

※二枚目に、監修の大栗博司氏、監督の清水崇氏からのコメントがございます。どうぞご覧ください。

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraikanjst.go.jp/	日本科学未来館 展示企画開発課 広報普及担当 Email: press@miraikanjst.go.jp TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

監修 大栗博司氏

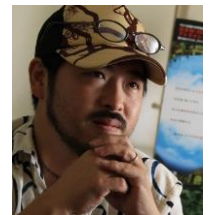
カリフォルニア工科大学 教授・理論物理学研究所 所長／東京大学 カブリ数物連携宇宙研究機構 主任研究員

「世界の名だたる科学博物館やプラネタリウム、映像制作会社が出品した 66 作品の中から、国際審査委員会によって「最優秀教育作品賞」に選ばれたことをとてもうれしく思います。科学の内容を正しくしかも楽しく伝えようとした私たちの努力が認められたのだと思います。日本の科学アウトリーチが世界的な水準にあることを示すものでもあります。清水監督をはじめとする映像クリエイターの皆さん、未来館のスタッフの皆さんに感謝します。この作品が、日本の将来を担う若い人々に科学の素晴らしさを伝え、国民の科学リテラシーの向上に、さらに貢献していくことを希望します。」



監督 清水崇氏

「とても光栄です。本作の制作をとともに支え、取り組んでくれたスタッフの皆、そして日本科学未来館の勇気ある人選や決断に今一度感謝の思いです。ありがとうございました！普段、商業娯楽映画…しかも、ホラーなどが多い僕の映像作品が、このような形で「教育」と名の付く賞をいただけるとは…くすぐったい思いです。本作を見た子どもや若者、たくさんの方々が、ドキドキワクワクしながら、科学への関心とともに、世界と自分自身の未知なる領域への探索と挑戦に活力を見出していただけたら、と願っています！」



作品概要

ホラー映画界の第一人者、清水崇監督が挑む、科学映像の新境地！

理論物理学者が見ている究極の景色を、最新の科学データと仮説をもとに映像化

『9次元からきた男』は、物理学の究極の目標である「万物の理論」をテーマにした3Dドーム映像作品です。近年、素粒子の研究ではヒッグス粒子が発見され、宇宙にはダークマターやダークエネルギーが満ちていることがわかるなど、自然界の法則の解明が進んでいます。しかし、素粒子のミクロの世界と、宇宙のマクロの世界をあらわす二つの理論は矛盾しており、理論物理学者たちはそれらを統一する「万物の理論」を見つけようとしています。その最も有力な仮説である「超弦理論」が提示する、驚くべき世界とは？



本来、数式でしかたどりつけない理論物理学の最前線が、ホラー映画『呪怨』などで知られる清水崇監督による体感的な演出によって、めくるめくトラウマ体験の連続となってドームいっぱいに広がります。さらに、ノーベル賞受賞で話題の素粒子・ニュートリノやヒッグス粒子を芸術的に可視化したCG、12億個という膨大なパーティクル数で描く精緻な宇宙の歴史など、最新の研究成果とデータに基づくビジュアルにも触れられる作品です。

『9次元からきた男』

(2016年/30分/3D/4K ドームマスター/7.1chサラウンド)

監修：大栗博司 監督：清水崇 ビジュアル・ディレクター：山本信一

出演：ジェームス サザーランド、ヨシダ朝、橘ろ一ざ、岡安旅人 声の出演：小山力也

脚本：井内雅倫 撮影：福本淳 照明：市川徳充 編集：金山慶成 音楽：石田多朗

宇宙進化シミュレーション映像：武田隆顕

データ提供：The Illustris Collaboration、CERN [欧州原子核研究機構]

協力：東京大学 カブリ数物連携宇宙研究機構 [Kavli IPMU]、カリフォルニア工科大学

制作・CG/VFX：オムニバス・ジャパン 企画・製作・著作：日本科学未来館

特設サイト：<http://www.miraikan.jst.go.jp/sp/9dimensions/>

上映スケジュール(6月22日現在)：10:30、11:30、12:30※、13:30、14:30、15:30、16:30(火曜休館、※12:30は土日祝日のみ)